



日本でいちばん大きい、また、小さい都道府県はどこなの

北海道がいちばん大きい

日本の国土面積は、北方領土をふくめ、約38万平方キロメートルです。これは、地球上のすべての陸地の約400分の1です。

日本は、4つの大きな島とそのほかの小さい島々からなっています。4つの大きな島は、面積が大きい順に、本州（23万1156平方キロメートル）、北海道（7万8416平方キロメートル）、九州（4万2157平方キロメートル）、四国（1万8799平方キロメートル）となっています。

すべての都道府県の数は、1都、1道、2府、43県で、合計47です。

北海道が最大の面積をもち、全体の21パーセントにあたります。面積は日本一なのに、人口数は570.2万人で、東京（1180.8万人）、大阪（880.2万人）、神奈川県（832.5万人）、愛知（693.2万人）、埼玉（685.2万人）、千葉（585.2万人）について、第7位です。（1997年10月現在）

いちばん小さい県は香川。大阪、東京、沖縄と続く。

日本でいちばん一番小さい県は、香川県で、1875平方キロメートルです。これは、北海道の面積の2.4パーセントしかありません。

続いて、大阪府（1893平方キロメートル）、東京都（2187平方キロメートル）、沖縄県（2267平方キロメートル）の順です。東京都と大阪府は、面積がせまいのに、人口が多いのですから、人口が密集していることになります。（監修・保岡 孝之）

